

「学習の3段階理論」

— 「定着のための作業時間の取り方」を考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q : 「学習の3段階理論」の2番目にあたる「定着」の3つの内容は、今までのお話でよく分かりました。今回は、「定着」の(1)~(3)を「実現」するためにはどうしたらよいかを伺いたいと思います。「定着」のためにはどうしたらよいか、「定着」のコツ・秘訣をお話下さい。

A : (林明夫 : 以下省略)

A 「定着」の方法

- (1) 定着のための作業時間を確保する。
- (2) 教科書、ノートブック等を音読する。
- (3) 何度も書いて覚える。
- (4) 基本的な問題を数多く解くこと。
- (5) 「確認テスト」では常に満点が取れるようにする。
- (6) 「マイ・ノートブック」を作る。
- (7) 常に復習しながら知識を積み上げていく。

B 「定着」のポイント

- (1) 自習室を利用する。
- (2) ファミコン、携帯電話を使用しない。
- (3) 暗記するために目、耳、口、手をフルに使う。
- (4) 辞書、参考書を活用する。
- (5) 文字、特に答えは「楷書」で丁寧かつ迅速に書く。

少しずつ、ゆっくりお話ししましょう。

「定着」のための最も大切な方法は、「定着のための作業時間」を確保することです。

『(1)「うん、なるほど」と一度「理解」した内容を、何も見ないで正確にスラスラ口をついて言える。(2)一度「理解」した内容を何も見ないで正確に「楷書」で書ける。(3)教科書にあるくらいの基本的な「例題」や「簡単な問題」は、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せる。』ことが開倫塾での「定着」の「定義」(ことばの意味)です。

この(1)~(3)を実現するには、学校や開倫塾の授業中だけでは不十分です。自分の力で時間を確保してやり遂げなければなりません。「定着」の(1)~(3)をやり遂げるといっても、「うん、なるほど」と一度「理解」している内容を「定着」させるだけですので、深く考えたり他人に相談したりする必要は一切ありません。既に一度「理解」していることを、頭に入りやすいようによく整理した上で次から次へと覚え込むことは、仕事に例えれば「作業」をしているのと同じです。ですから、「定着のための作業」と開倫塾では呼んでいるのです。「定着」は、頭を使って難しいことを考えるのではなく体を使って坦々と、そしてコツコツと時間をかけてやる、仕事でいえば「作業」

と同じです。

作業ですから、「理解」したすべてのものを正確に覚え込んで、いつまでも忘れることのないというほど記憶力のよい人は除いて、時間を確保しコツコツと丁寧に、そして坦々とやり遂げる以外方法はないのです。

定着の方法の1番目に「定着のための作業時間の確保」が上げられているのはそのためです。

皆さんは今まで色々なことを1日24時間の中でやってきました。今でも時間が足りないのに1日24時間の中に「定着のための作業時間」を入れる余裕はないとお考えかもしれませんね。

Q：では、どうしたらよいのですか。

A：京都の一燈園で、石川洋先生にと教えて頂いた「捨てなければ得られない」という言葉を私は思い出します。

自分の人生や他の人、社会にとって何か意味あることを成し遂げたいと思ったら、今までやってきたことを考え、必要性の少ないものを少しだけやめ、やめた分のエネルギーや時間を新しいことに注ぎ込むといいと、この「捨てなければ得られない」という言葉は、私たちに教えているような気がしてなりません。

Q：「捨てなければ得られない」ですか。なかなか含蓄(がんちく)のある言葉ですね。

A：はい。「定着のための作業時間を確保したい」と希望するのであれば、自身のこれまでの生活を振り返って「定着のための作業時間」に振り替えてもよさそうな「時間」を探し出すことです。

Q：そんな時間は無いように思えますが……。あるのでしょうか。

A：自分自身の生活の中で長い時間を取られるものを探し出し、それを少しずつ削減し続ければ簡単な出来ます。

— 1日の生活の中で長い時間を取られるもの

- ①長い時間行うファミコン
- ②長い時間行う携帯電話での会話や e-mail
- ③長い時間見続けるテレビ
- ④長い時間入るお風呂
- ⑤長い時間かけてする「ケンカ」
- ⑥長い時間悩み続けること
- ⑦低俗なマンガや低俗な本・雑誌を長い時間読むこと

自分なりに1日の生活の中で時間のかかるものを書き出した上で「自覚」を持って減らし続けることがコツです。じっくりこの表をながめ「自覚」を持って少しずつ減らす。

私は、①～⑦を一切やらない方がよいといっているのではありません。あまりにも長い時間やり続けることを避けることで、「定着のための作業時間」を確保することはいくらかでも可能です。と皆様に訴えたいだけです。

物事は程度問題ですから、ファミコンや携帯電話なども必要であれば積極的に活用したほうがよい。TVやマンガ・本・雑誌には素晴らしい内容のものが数多く、コミックの中には江戸時代の「浮世絵」をはるかに凌駕するものもあり、日本の「ソフト・パワー」(世界の人々を魅力でマグネットのように引きつけるもの)となっているものも多いのです。「ドラゴン桜」のおかげで何百万人も

の中学生や高校生、学校や学習塾・予備校の先生方、ビジネスマンが自分の勉強の方法を根本から見直し、勉強の仕方を工夫し始めました。「ケンカ」や「悩むこと」も人生には大切です。風呂も衛生や健康を保つ上では必要不可欠です。すべて物事には意味があり要らないものはありません。しかし、時間をかけすぎたその結果、した方がよいことに時間をふりわけられなくなることは、できるだけ避けたほうがよいと私は考えます。

最も大切なことは、今やらなければならないことをよく「自覚」したうえで「自分自身を律すること」、つまり「自覚」と「自律」ではないかと私は考えます。

Q : 「自覚」した上で「自律」ですか。

A : はい。その通りです。自分の人生をどうよりよく生きるかということにも繋がる大きな問題なので、大変かもしれませんが時々はゆっくりとよく考えてみて下さい。話が難しくなってきましたので先へ進ませて頂きます。

「定着」の定義(ことばの意味)として

(1) 「うん、なるほど」と一度「理解」したことを何も見ないで正確にスラスラ口をついて言えること。

(2) 一度「理解」したことを正確に「楷書」で書けること。 があります。

この2つを達成するためには、**A** 「定着」の方法の(1) 「定着のための作業時間を確保」した上で、(2) 「教科書、ノートブック等を音読する」(3) 「何度も書いて覚える」ことです。また、**B** 「定着」のポイントの(3) 「暗記するために、目、耳、口、手をフルに使う」(5) 「文字、特に答えは楷書で丁寧かつ迅速に書く」を行うことが大切です。

英語や国語だけでなく社会、理科、数学も「うん、なるほど」と一度「理解」した教科書や自分で作ったノートブックを丁寧にゆっくりと落ち着いて声に出して読むこと、「音読」することを怠らないことです。目と口と耳をフルに使い、「うん、なるほど」と一度「理解」した教科書やノートブックの内容が正確に口をついて出てくるまで音読することです。

様々な方法を自分で工夫し、初めは一つの文から始め、一段落、一ページ、数ページと増やし、教科書とノートブックに書いてある内容はすべて、全科目とも口をついて正確にスラスラ言えるまでに行ってみましょう。

次に書いて書いて書きまくり、一度正確に口をついて言えるようになったことは、正確に「楷書」で迅速に書けるようにしましょう。

なぜ「楷書」がいいかといえば、文字は他人、特に採点する先生に見てもらうことを考えれば「楷書」のほうが読みやすく、また、不利益な扱いを受ける確率が低いからです。アルファベットや数字も日本語の「楷書」に当たる分かりやすい文字で正確に書くことをここでも心がけましょう。

テストでは、正確に、それも「楷書」のように分かりやすい文字で書けなければ点にはなりません。正確に書けることは実力の一つといえます。

Q : 「定着の内容」の3番目の『教科書にあるくらいの基本的な「例題」や「簡単な問題」は問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せるようにする』ためにはどうしたらよいのですか。

A : 教科書の問題を最低2回、できれば5~6回やり直すことが1番大切です。教科書に出ている問題は、億劫がらずに繰り返しノートブックや要らない紙などに問題も一緒に書いて解いてみましょう。問題を解く都度、「楷書」でスピードを持って迅速に問題と解答を書き上げる練習をすること

です。

Q：問題も書いた方がいいのですか。

A：はい。例えば問題を見て $4a$ と答えだけ書くよりは、 $a + a + 2a = 4a$ と問題も書いた方がよいのです。

正確に覚えるべきものは、答えだけではありません。その答えがどのような問題に対する答えなのかも大事です。問題と答えをどちらも正確に覚えることで、答えを見て問題が正確に言えたり、書けたりするようになります。問題を出す人がなぜこのような問題を作ったのか、出題者の考え(意図)が分かるようになると自分でも問題が作りたくなります。その時には遠慮せずどんどん問題を作り、友達と出し合ってみましょう。(だんだん「ドラゴン桜」みたいになってきましたね。興味のある人は三田紀房著「ドラゴン桜」第2巻 第15限目、第16限目(講談社刊 514円)を読んでみよう。)

Q：**A**「定着の方法」の4番目の「基本的な問題を数多く解く」とはどういうことですか。

A：教科書レベルの例題や基本的な問題を「うん、なるほど」と一度「理解」できたあと、少なくとも2回、できれば5～6回繰り返してノートや要らない紙に問題も書いた上で解き、問題を目にした瞬間にほぼ条件反射で正解できるようになったら、次にどうするか。

問題のレベルを上げて「中級問題」に進む前に、学校で使用している「教科書準拠問題集」や市販の「教科書準拠問題集」、開倫塾のテキストや問題集の中の教科書レベルの問題など「基本的な問題を数多く解くこと」を強力にお勧めします。教科書の基本的な知識を定着させるための基本的な問題が数多く出ている「教科書準拠問題集」を大いに活用してもらいたいと希望します。

Q：そのようにすれば、**A**「定着の方法」の5番目の「確認テストでは常に満点が取れるようにすることが出来ますね。

A：その通りです。学校でも開倫塾でも熱心な先生は、今まで勉強した範囲の基礎的な内容についてある程度区切りがつくと、授業のたびごとに「確認テスト」(「豆テスト」という先生もいる)を宿題も兼ね実施して下さいます。

小さな目標を細かく立て、コツコツと着実に学力をつけるには「確認テスト」は絶大な効果を持つので、多くの熱心な先生はこれを授業に取り入れています。

今までにお話した「定着のための作業」を確実にやっていけば、確認テストで必ず満点が取れます。自分一人で黙々と「定着のための作業」をやり抜くよりは、「次の確認テストで満点を取るんだ」という身近な目標をもつ方が「定着のための作業」が挫折なくより確実に成し遂げられます。

「確認テスト」を出して下さる先生に教わっている皆様は「幸せ」であるといえます。

Q：中間テストや期末テストなど学校の定期テスト対策に「定着のための作業」は役に立つのですか。

A：もちろんです。「確認テスト」でいつも満点を目指しコツコツと「定着のための作業」をやり通した人は、中間テストや期末テストなど学校の定期テストで、全科目100点満点が取れます。

「定着のための作業」を確実に行ったうえで、毎学期1～2回は「確認テストで満点」を取るという身近な目標を達成できれば、出題範囲の決まっている学校の定期テストでも、テストの3～4週間前から万全の体勢で臨めば誰でも全科目満点が取れます。「定着のための作業」という小さな積み重ねが確実な基礎力となり、偏差値60突破のカギとなります。

今日はこれまでとします。

－ 1 月 9 日記 －